

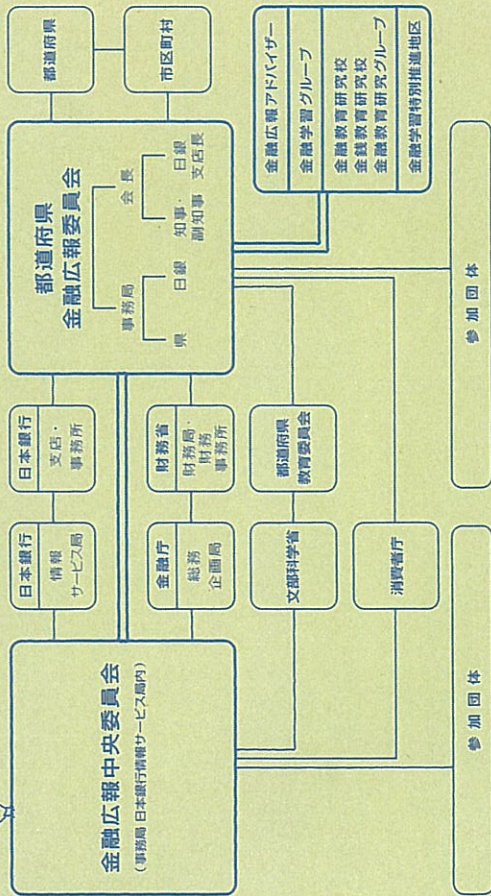


金融広報中央委員会は広報誌「くらし塾きんゆう塾」を発行しています。また、金融に関する情報をわかりやすく解説した刊行物の配付やビデオの貸出等を無償で行っています。学校で、また金融学習グループ活動などでご利用ください。詳しくは、ホームページをご覧ください。

知るぽると 金融広報中央委員会

ホームページアドレス <http://www.shiruporuto.jp/>
 〒103-8660 東京都中央区日本橋本石町2-1-1
 日本銀行情報サービス局内
 TEL:03-3279-1111(代)

< 活動の相互連携図 >



くらしに役立つ金融情報をわかりやすく伝えます



知るぽると

— 活動のご案内 —

おこなっている情報をもっとくらしに役立ててほしい。

そのために必要な情報をわかりやすく届けたい。

そんな思いで活動しているのが、「知るぽると」の金融広報中央委員会。

日本銀行の中に事務局のある、中立・公正な団体です。

「知るぽると」は、金融広報中央委員会および各都道府県金融広報委員会の愛称です。

知るぽるとの「ぽると」とは、「港」「入り口」の意味。

金融の情報が集まる「港」として、金融の知識への身近な

「入り口」として、さまざまな活動を展開しています。

2013年3月
 金融広報中央委員会
 (事務局 日本銀行情報サービス局内)



金融広報中央委員会って？

これからの時代、ゆたかな暮らしのためには、的確な情報選択や生活設計への自主的な取り組みが、ますます大切になります。そこで必要なのが、身近でわかりやすい金融情報や知識。わたしたちは、各都道府県金融広報委員会、政府、日本銀行、地方公共団体、民間団体などと協力しながら、さまざまな“くらしに身近なおかねの情報”を、中立・公正な立場から提供しています。

金融に関する情報提供や、学習支援を行っています。

自分にあった資産運用の選択や生活設計、資金計画、それらに欠かせない金融商品、税金や年金、保険などに関する情報を提供しています。

基本からできるだけわかりやすくお伝えするために、

ホームページやさまざまな刊行物を通じて情報を提供したり、講演会・セミナー等を開催したり、講師を派遣したりしています。このほか、金融に関するアンケート調査なども行っています。

また自主的なグループによる金融学習のお手伝いもしています。

さらに金融教育研究校、親子向けイベントや作文コンクールなどを通じて、子どもたちがくらしに身近な金融や経済についての正しい知識、金銭やものに関する健全な価値観を身につけるお手伝いもしています。

おかねのことを、
わかりやすく
教えてくれるのね。



どんな特徴があるの？

中立・公正な立場で活動しています。

世の中には、多くの機関がいろいろな形で発信した金融情報が氾濫しています。そんな時代にこそ必要なのが情報の信頼性。それを実現するために、わたしたちは「中立・公正」であることを大切に、活動の基本に据えています。

全国規模で活動しています。

全国47都道府県にある金融広報委員会と協力しながら、幅広いネットワークで活動しています。(各都道府県金融広報委員会は、都道府県庁、財務省財務局・財務事務所、金融経済団体、婦人団体、日本銀行本支店・事務所などにより組織されています。)

地域に密着した活動をしています。

個人、団体、学校など、多くの方々に参加いただき、地域に密着した、きめ細かい活動をしています。また、地域ぐるみで金融学習を推進する活動を応援しています。

わたしたち生活者のための組織ということね。



元々は貯蓄増強中央委員会という名称で、国民のみならずの豊かな生活設計のために、貯蓄の大切さを伝えてきました。その後、時代のニーズに合ったより役立つ情報を提供するため、活動内容や組織名称を変えてきました。現在は、金融に関する学習や学校等における金融教育の支援、金融情報の提供を行っています。

昭和27年 「貯蓄増強中央委員会」として発足。
昭和63年 「貯蓄広報中央委員会」に改名。
平成13年4月 現在の「金融広報中央委員会」に改名。
平成16年4月 「マネー情報知るぽろど」の登録を採用。
平成18年10月 「金融教育プラザ」を設置。
平成19年5月 登録を「知るぽろど」に変更。

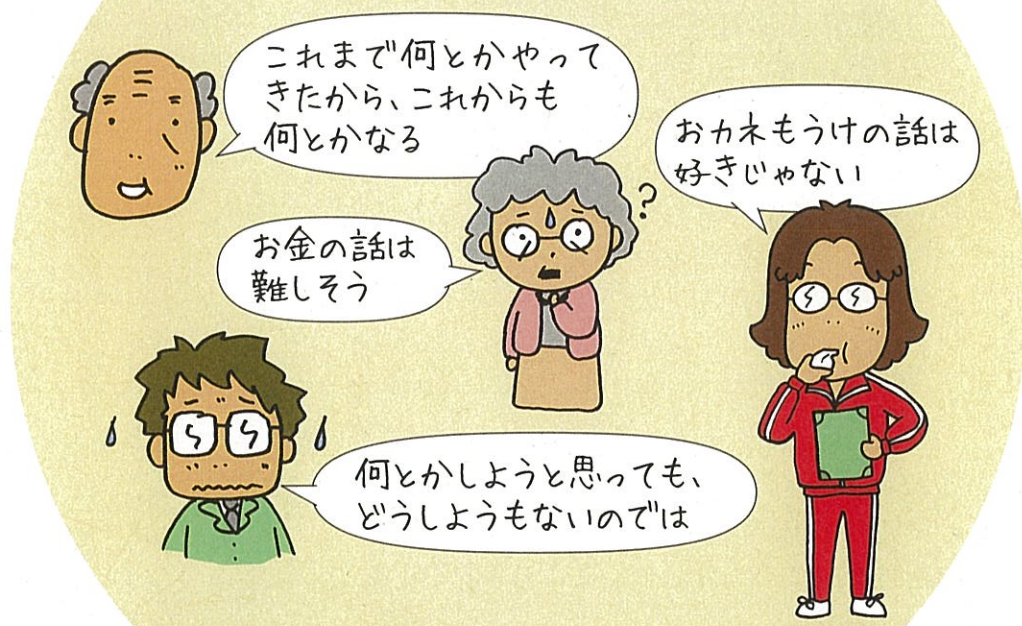


いろんな人が関わっているんだね。



大人のための お金と生活の知恵

「お金」と日々の「生活」。切っても切れない関係にあるこの2つ。
この2つを巡って、あれこれ考え、心配したり、悩んだり。
苦勞も多い、というのが実感ではないでしょうか。
ところで、これほど大切な「お金と生活」のこと。
これまで、きちんと学ぶ機会がありましたか？



色々な見方があると思います。しかし、今は、学校でも、「生きる力」を育むため、お金と生活の基本を学ぶようになっていきます。本書では、大人の方のための「お金と生活の知恵」をご紹介します。

「1つでも役立つことがあればよい」、
そんな軽い気持ちでご覧ください。

2014年(平成26年)3月
金融広報中央委員会

金融広報中央委員会(事務局:日本銀行情報サービス局内)は、健全で合理的な家計運営のために、都道府県金融広報委員会、政府、日本銀行、地方公共団体、民間団体等と協力して、中立・公正な立場からの正確でわかりやすい「金融経済情報の提供」と、一人ひとりが賢い消費者として自立するための「金融経済学習の支援」を積極的に展開しています。

I お金と生活を「見える化」する

1. 出発点～今後の人生を描いてみる

- まず、次の2つのことを、考えてみてください。

- ① いま、人生のどの時点にいるか。今後の人生はどのようにしたいか。
- ② いま、お金はどれくらいあるか。今後の見通しはどうか。

- 今後の人生を描いてみるのが、「お金と生活の知恵」の第一歩です。
- 自分の人生について、今後の方向を描くことは、自分にしかできません。また、人生とお金の問題は切り離せません。
- 今後の人生についてよく考えてみることで、お金の問題とも向き合うことが、より良い方向（より安心できる生活など）に向かう出発点となります。

2. ライフプランとお金を結びつける～「今」と「将来」の「見える化」

- 今後の人生についてイメージを描いた後、それを実現するためには、もう一步、具体的に考えてみる必要があります。

- ① 今後の人生や生活に関する希望を書き出してみる。希望を実現するために、大抵どの程度のお金が必要か考えてみる。

例：老後も夫婦で趣味や旅行等を楽しみ、月〇万円程度の支出を続けたい。

【参考】当委員会の『生活設計診断』（次頁コラム）には、老後の生活費の「参考値」として、高齢者の夫婦、単身者の生活費を掲載しています。また、予想がつかない方のため、便宜的に「ゆとりある生活水準」を年間400万円程度、「普通的生活水準」を同330万円程度、「質素な生活水準」を同260万円程度、としています。

- ② お金に関する現在の状況を確認する（収入と支出、資産とローン）。また、今後について見通してみる。

例：いま資産が〇万円ある。給与、年金は今後〇万円程度もらえると思う。

例：年金と資産の取りくずしで、年間〇万円の支出を〇歳まで続けられそう。

【参考】年金をまだ受給していない方は、「ねんきん定期便」などで受給額を確認しましょう。

- ③ 上の2つを考えあわせ、今後の生活とお金に関する課題を発見する。

- この①と②は、1. 出発点での①と②をより具体化したものです。金額は概算で十分です。大まかでも、把握する（「見える化」する）ことに意義があります。

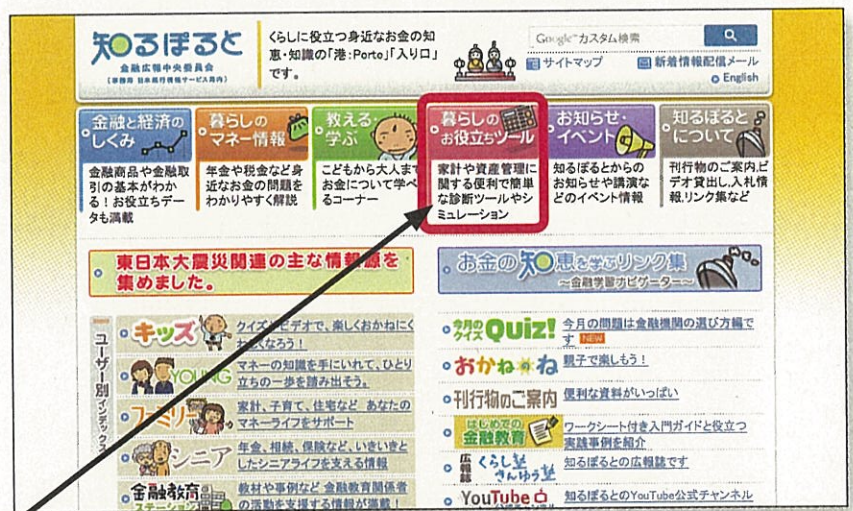
【コラム】「生活設計診断」を、ご利用ください

- 金融広報中央委員会（「知るぽると」）のホームページには、「生活設計診断」のコーナーがあります。
- 空欄に、数字を入れてみるだけで、あなたの暮らしの現状や老後を診断します。
—— 入れる数字は、手取り収入、退職金額、生活費、年金受給額、貯蓄額、借入金額などです。
- 参考となるデータも出ています（老後の生活費など）。ぜひご利用ください。

「知るぽると」で検索



「知るぽると」ホームページ(トップページ)へ



「暮らしのお役立ちツール」に「生活設計診断」があります

こちらです

